

令和7年度 学校評価における 重点目標

①【学習】

学習、運動、学校行事等、すべての教育活動をととして「自分から 自分らしく」「できないことができるようになる」ためのチャレンジを支援し、達成感を味わわせることで自己肯定感・自尊感情を育てる取組を充実させる。

②【コミュニケーション力・挨拶】

授業中での言語活動の充実を図り、実生活の中でよりよい人間関係を育むためのコミュニケーション能力を高める。コミュニケーションの基本である挨拶を、誰にでも自分から進んでできる児童を増やす。

③【学力】

全教科において伝え合う力を大切にするとともに、「汎用的読解力」の育成を目指し研修を重ねる。課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践をすすめ、学ぶ意欲や習慣を身に付けた児童の育成を図る。

④【健康・体力向上】

体づくり運動や体幹を鍛える運動を積極的に取り入れるとともに、規則正しい生活習慣の重要性を家庭に啓蒙し、体力向上を図る。

⑤【環境・安心安全】

清掃活動に重点をおくとともに、教職員による安全点検を徹底し、清潔で安心安全な環境整備に取り組む。保護者、地域や関係機関と連携し、安全教育の取組をすすめる。

⑥【連携】

学校運営協議会、地域学校協働活動の適切な運用を図るとともに、HP や X(旧 Twitter)、学校・学級だより、懇談会等をととして、積極的に情報発信し、保護者・地域との連携を深める。

令和7年度 学校評価(具体的達成目標と評価指標)

「1」 (重点課題番号) 評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化
	公表日 7月1日
	<div> <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ </div> <div> 公表方法 <div> <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他 </div> </div>
①	<p>○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全教職員で共通理解を図る。(児童理解全体会議:年2回、生指部会:月1回)</p> <p>○「自分から自分らしく」進められる学習や活動を充実させる。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びのある授業、「できないこと」が「できるようになる」授業の工夫に取り組む。(めあての意識化・学びの焦点化・振り返りの設定・ICTの活用) (児童アンケートで「学校へ行くことが楽しみ」と答える割合を8割以上にする。)</p>
②	<p>○生活目標を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。 (児童アンケートで「自分から進んで挨拶をしている」と答える割合を8割以上にする。)</p> <p>○各教科での言語活動の充実、学級活動等での話合いの充実を図る。</p>
③	<p>○校内研究教科を全教科とし、研修を深める。(「汎用的読解力」、「自分の思いや考えを伝え合う力」の育成)</p> <p>○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、授業力向上を図る。</p> <p>○家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。</p>
④	<p>○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。</p> <p>○体幹を鍛えるトレーニングの取組を引き続き実施し、定着させる。</p> <p>○規則正しい生活習慣の確立について、家庭と連携して進める。</p>
⑤	<p>○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。</p> <p>○清掃活動の充実、教職員による安全点検(月1回)、見回り等を通じて、安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。 (児童アンケートで「校内がきれいになるようにしている」と答える割合を9割以上にする。)</p>
⑥	<p>○年間を通じて外部団体や学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いのなかで体験的な活動の充実を図る。</p> <p>○ICTの活用により、外部とつながる体験的な学びの充実を図る</p> <p>○HPやX(旧Twitter)、学校・学級だより等、積極的な情報発信に努める。そのための校内体制の整備を進める。</p>

令和7年度 学校評価総括表

令和 7 年度 学校評価総括表			学校名		生駒市立生駒台小学校		所属長名		東島 代次郎		印						
Ⅰ 学校教育目標			歩いていこう 自分から		○自分らしさを大切にし、自主的・自発的に活動する子どもを育てる ○正しい判断力と強い意志を育み、自己実現を目指す子どもを育てる ○すすんで心身を鍛える子どもを育てる ○心豊かにして生命・人権を尊び、自己尊重の精神及び公共の精神を基盤としてみんなのために働く子どもを育てる ○国際理解と協調につとめ、多文化と共生できる子どもを育てる												
Ⅱ 前年度に残された課題			Ⅲ 本年度の重点課題					Ⅳ 来年度に残された課題									
○「自分から 自分らしく」を合言葉に、学習も生活も児童が自主的・主体的に取組み、自己肯定感・自尊感情をもてるよう更に改善していく。 ○引き続き学校でも地域でも「いつでも」「誰にでも」「自分から」挨拶できる児童の育成に努める。 ○研修主題に基づき研修の充実を図り、教職員の学びあいの中で個々の授業力の向上を目指す。 ○児童に関する情報交換と課題共有をより徹底し、個に応じた対応を組織的に行う。 ○児童の実態把握に基づき、体力・運動能力向上の取組を推進する。 ○家庭との連携を図り家庭学習の習慣やあり方を見直す。 ○校内の安全対策や危機管理について対応を一層高める。 ○積極的に情報発信し、保護者・地域との連携を深める。 ○教職員で課題を共有し、働き方改革を推進する。			①【学習】学習、運動、学校行事等、すべての教育活動をおして「自分から 自分らしく」「できないことができるようになる」ためのチャレンジを支援し、達成感を味わわせることで自己肯定感・自尊感情を育てる取組を充実させる。 ②【コミュニケーション力・挨拶】授業の中での言語活動の充実を図り、実生活の中でよりよい人間関係を育むためのコミュニケーション能力を高める。コミュニケーションの基本である挨拶を、誰にでも自分から進んでできる児童を増やす。 ③【学力】全教科において伝え合力を大切にするとともに、「汎用的読解力」の育成を目指し研修を重ねる。課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践をすすめ、学ぶ意欲や習慣を身に付けた児童の育成を図る。 ④【健康・体力向上】体づくり運動や体幹を鍛える運動を積極的に取り入れるとともに、規則正しい生活習慣の重要性を家庭に啓蒙し、体力向上を図る。 ⑤【環境・安心安全】清掃活動に重点をおくとともに、教職員による安全点検を徹底し、清潔で安心安全な環境整備に取り組む。保護者、地域や関係機関と連携し、安全教育の取組をすすめる。 ⑥【連携】学校運営協議会、地域学校協働活動の適切な運用を図るとともに、HPやX(旧Twitter)、学校・学級だより、懇談会等をおして、積極的に情報発信し、保護者・地域との連携を深める。														
（1） 評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標		[3]自己評価			[4]外部アンケートの分析			[5]自己評価			[6]学校関係者評価					
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化		中間評価			児童生徒アンケート			保護者アンケート			最終評価(成果と課題)		課題の改善策等		評価者人数 人	
	評価日 1月23日 公表日 1月23日 公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他		評価日 1月23日 公表日 1月23日 公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他			実施日 7月・12月 実施日 12月 公表日 1月23日 公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他			実施日 12月 1月22日 公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他			評価日 公表日			評価日 公表日		
	評定		評定			評定			評定			評定			評定		
	公表方法		公表方法			公表方法			公表方法			公表方法			公表方法		
①	○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全教職員で共通理解を図る。（児童理解全体会議：年2回、生指部会：月1回） ○「自分から 自分らしく」進められる学習や活動を充実させる。 ○主体的・対話的で深い学びのある授業、「できないことが「できるようになる」授業の工夫に取り組む。（めあての意識化・学びの焦点化・振り返りの設定・ICTの活用） （児童アンケートで「学校へ行くことが楽しみ」と答える割合を8割以上にす。）		B ○個々の児童について共通理解を図るため、児童理解の会議を5月に実施。（3月予定） ○生指部会月1回、学年や学級の児童の様子について情報交換を行い、各学年等に共通理解を図った。 ○市教育大綱や学校運営方針をもとに、児童が自分から主体的に取り組む、自分らしく学べるように、授業改善を行った。 ○できるだけ（基本一日一回）、全学級の授業観察の機会をもち、児童の様子や学級の状況、授業の工夫や課題について、機会あるごとに授業者に声かけや面談をして共有した。			「学校へ行くことが楽しみ」+78.9 「授業が分かりやすい」+92.7 「できるようになるとチャレンジをたくさんしている」+83.2 「困ったことや悩んだことについて先生に相談している」+59.8 「タブレット端末を使うことは勉強の役に立つ」+94.5			「学校へ行くのを楽しみにしている」+87.9 「授業が分かりやすいと言っている」+76.7 「学校は相談に適切に応じている」+86.4 「学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる」+72.8 「学校はタブレット端末などICTを活用した教育を進めている」+81.9								
②	○生活目標を具体的にめあてとともに掲げ、取組を進める。 （児童アンケートで「自分から進んで挨拶をしている」と答える割合を8割以上にす。） ○各教科での言語活動の充実、学級活動等での話し合いの充実を図る。		B ※生活目標 6・7月 9・10月 11・12月 1・2月			※アンケート欄の+の後の数字は、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計ポイント数 「自分からすすんで挨拶をしている」+82.6 「話したり話し合ったりすることが好き」+73.6			「子どもには家庭学習の習慣が身についている」+71.0								
③	○校内研究教科を全教科とし、研修を深める。（「汎用的読解力」「自分の思いや考えを伝えよう力」の育成） ○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、授業力向上を図る。 ○家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。		B ○1・2・3・4・5・6年の全ての学年で「読解力の向上」に重点を置いて授業研究を行った。 学年で協議して教材研究を行い、授業を公開したのち研究協議を通して研修を深めた。 ※今年度から奈良県立教育研究所の研究協力校「汎用的基礎読解力」の育成			「学習することは楽しい」+77.7 「家での学習の時間を決めて、毎日取り組んでいる」+70.4											
④	○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。 ○体幹を鍛えるトレーニングの取組を引き続き実施し、定着させる。 ○規則正しい生活習慣の確立について、家庭と連携して進める。		B ○毎朝の体づくり体操を継続して行っている。1年間で前後半に分けてVer1と、体力テストの結果分析による本校児童の課題を踏まえ体育部が作成したVer2とをそれぞれ実施。 ○体幹を鍛えるKOBAS式トレーニングを特別支援学級の自立活動で実施。高学年は体育専科の授業内で実施。			「早寝早起き朝ごはん・しっかり運動・好き嫌いなしがきている」+74.6 「体育や休み時間には、しっかり体を動かして運動している」+75.5			「好き嫌いのない食事・早寝早起き朝ごはん・外遊びをしている」+78.2								
⑤	○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。 ○清掃活動の充実、教職員による安全点検（月1回）、見回り等を通じて、安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。 （児童アンケートで「校内がきれいになるようにしている」と答える割合を9割以上にす。）		B ○火災、地震、不審者対応の避難訓練を実施。 警察や消防と連携した研修や訓練、薬剤師と連携した薬物乱用防止教室を行った。 ○警察と連携し、交通安全教室を行った。（1年生：横断歩道の渡り方等、4年生：自転車内安全運転等） ○教職員による校内安全点検と校区内パトロールを毎月行い、危険箇所や修繕箇所の早期対応に努めている。			「校内がきれいになるようにしている」+90.9			「学校は子どもとともに清潔な環境美化に努めている」+79.0								
⑥	○年間を通じて外部団体や学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いのなかで体験的な活動の充実を図る。 ○ICTの活用により、外部とつながる体験的な学びの充実を図る。 ○HPやX(旧Twitter)、学校・学級だより等、積極的な情報発信に努める。そのための校内体制の整備を進める。		A ○外部団体や地域の方を招いての出前授業を行った。 ○学校ボランティアの協力を得て、学習支援をしてもらったり、子どもたちが楽しめる行事を行った。 ○学校だよりやX(旧Twitter)を活用しての情報発信を積極的に行った。 ○各学級においても児童の生活や学習の様子を伝えるため、適宜、学級だよりを発行した。			「HPやX(旧Twitter)、台小だよりを通じて、教育方針や教育活動を分かりやすく伝えている」+88.9											